



# 廃棄物に埋もれる前に!



## ■ チーム名

同志社国際高等学校 Future Doshisha Instigators

## ■ チーム紹介

同志社国際高等学校の「Future Doshisha Instigators」です。様々な国から帰国し、多様なバックグラウンドを持つ私たちは、日本を海外から見つめることのできる多角的な視点と、海外生活経験を通して得た知識や分析力を生かして、環境問題をより効果的に解決できる自信がある。この度のプロポーザルで私たちは、現状を逆手にとり、ゴミを活用して年々増加している廃棄物の課題を解決することを目的とする。

## ■ 私達が目指す未来の地球(実現したい内容)

プラスチックの使用、排気量を実質的にゼロにすることは不可能に近い。しかし、自然と共生していくためには、地球人としてこのような課題を対岸の火事のように捉えず、能動的に働きかける必要があるのではないかと。そこで、私たちはゴミの堆肥化がさらにノーマライズされ、ゴミが無駄な廃棄物ではなく、再利用可能な資源として活用されるものとなる社会を実現したいと強く思う。廃棄物の削減と聞くと、解決策を実行する中で、消費者が商品の購入過多で指摘され、悩まされるケースをよく目にする。しかし、私たちは、消費者・供給者共に自然と共存できる社会を確立していきたいと願う。

## ■ どのように実現するか

2016年、イェール大学環境学部は、プラスチック製の廃棄物を消費・分解する能力を持つミールワームという幼虫を発見した。このようなプラスチック製品を分解してくれる自然要素も取り入れつつ、リサイクルを継続的に実行することで、プラスチック製の廃棄物はかなり抑えられるはずである。さらに、コンポストなどの有機物の生ゴミを利用した対策は、生ゴミを自然な肥料へと変えることができる。そして、このプロセスで得た肥料を地元の農業者に提供することで、農業者の経済的負担も安く済み、地域の貢献へと繋がり、好循環を生み出すことが可能である。私たちはこれらの仕組みを融合させる、効果的な手段でこの環境課題に立ち向かって行きたいと思う。

## ■ 実現した際の効果

廃棄物の量が著しく減少し、日常的に排出されるゴミを資源に変身させ、持続的に再利用できる社会が形成されるのではないかと。